

資料番号	3
------	---

令和6年10月3日
課名 地域政策局 平和推進プロジェクトチーム
担当者 担当課長（国際連携担当） 西澤
内線 2468

持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラムでの働きかけ結果について

1 要旨

米国・ニューヨークの国連本部で開催された「持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラム」（以下「国連ハイレベル政治フォーラム」という。）の機会を捉え、知事が、会議関係者、国連関係者及び各国政府関係者に、県／へいわ創造機構ひろしま（HOPe）の取組を発信し、核兵器廃絶に向けた働きかけを行った。

2 現状・背景

国連ハイレベル政治フォーラムは、2030 アジェンダと持続可能な開発目標（SDGs）のフォローアップと振り返りを行う主要な場となっており、国連総会、経済社会理事会、その他の関連機関やフォーラムと連携しながら、政治的リーダーシップを取って、指針を提供している。国連総会主催のもと、4年ごとに国家元首や政府首脳レベルで、また経済社会理事会主催のもと、毎年閣僚級で開催されている。今年は7月8日～17日の日程で閣僚級で開催された。

3 概要

(1) 概要

知事が関係者と個別に面会し、持続可能性の観点から核兵器問題を提起する新しいアプローチについて説明を行い、次期国連開発目標策定への協力を依頼した。

また、「グローバル・アライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」」（通称 GASPPA）の活動を紹介したほか、フレンズ会合の設置などの取組に対して理解や協力を求めた。

併せて、核兵器を巡る国際情勢について意見交換を行い、核軍縮の進展に向けて働きかけを行った。

ア 期間

令和6年7月7日（日）～7月11日（木）

イ 場所

ニューヨーク

ウ 派遣者

知事、島田 HOPe プリンシパル・ディレクターほか

(2) 主な内容

ア パウラ・ナバレス議長との面会

（第79代経済社会理事会議長、国際連合チリ政府常駐代表）

県／HOPeの取組について、持続可能性の観点から核兵器問題を提起する新しいアプローチを中心に説明を行い、賛同を得るとともに、国連の経済社会理事会のプロセスでどのような働きかけが有効かについて助言を求めた。



ナバレス議長との面会

また、GASPPA の活動と政府関係者を対象としたフレンズ会合設置を目指していることを説明し、協力を求めた。

ナバレス議長からは、「県/HOPe の取組である、様々なグローバル課題を横断的に議論することこそが進むべき道であり、全面的にサポートする。」とのコメントをいただくとともに、チリ政府大使として、ラテンアメリカ諸国との連携や、国連未来サミットをはじめとした様々な国際会議の場を積極的に活用するよう助言があった。

イ 野田章子 国連事務次長補 兼 国連開発計画（UNDP）危機局長との面会

県/HOPe の取組について、持続可能性の観点から核兵器問題を提起する新しいアプローチを中心に説明を行い、賛同を得た。

野田局長からは、「広島を持つ復興に関する大きなメッセージ性を生かして、UNDP がイベントをする際にパネリストで登壇してもらうなどの連携が考えられる。」とのコメントがあった。

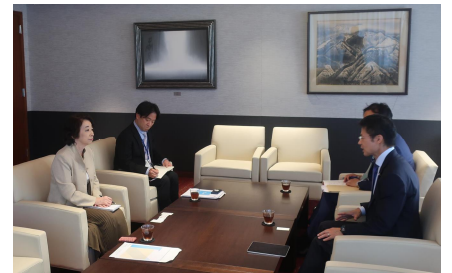


野田局長との面会

ウ 志野光子 特命全権大使・国際連合日本政府次席常駐代表との面会

県/HOPe の取組について説明を行い、日本政府に協力を求めるとともに、核兵器を取り巻く国際情勢に関する今後の展望や、国連内での次期開発目標に関する議論の状況について意見交換を行った。

志野大使からは、「日本に行く人、特に次世代を担う人たちには、広島へ行き、核兵器がもたらす悲惨な結果を目の当たりにしてほしいと要請をしている。現在も悲惨な紛争が続いているが、これは結果に対する想像力の欠如がもたらすものである」とのコメントがあった。



志野大使との面会

エ マルリツア・チャン・バルベルデ大使（国際連合コスタリカ政府常駐代表）との面会

県/HOPe の取組について、持続可能性の観点から核兵器問題を提起する新しいアプローチを中心に説明を行い、賛同を得るとともに、今後の連携や、国際社会の中でどのような働きかけが有効なのか、助言を求めた。

また、GASPPA の活動と政府関係者を対象としたフレンズ会合設置を目指していることを説明し、協力を求めた。

チャン大使からは「核兵器廃絶を持続可能性の観点からアプローチするのは適切な方向である。コスタリカ政府も同様の主張をしている。また、核軍縮に係る国際会議の場で、具体的な合意文書案に意見を反映させる活動を進めていくと良い。」との助言があった。



チャン大使との面会

オ カイラット・ウマロフ大使（国際連合カザフスタン政府常駐代表）との面会

県/HOPe の取組について説明を行い、賛同を得るとともに、同国代表が核不拡散条約運用検討会議と核兵器禁止条約締約国会議の議長を同時に務めているという強いポジションにあることから、今後の連携や、国際社会の中でどのような働きかけが有効なのか助言を求めた。



ウマロフ大使との面会

また、GASPPA の活動と政府関係者を対象としたフレンズ会合設置を目指していることを説明し、協力を求めた。

ウマロフ大使からは、「カザフスタンは中央アジアにおける非核兵器地帯の拡大に努めている。県/HOPe が提案する包括的なアプローチは、まさにカザフスタンが進めようとしているアプローチであり色々な面で協力を深められると考える。カザフスタンが国連や国内でイベントを開催する際には、ぜひ参加してもらいたい。」との依頼があった。

4 スケジュール（月日は現地時間）

月 日	項 目	場 所
7/7 (日)	日本発、現地着	ニ ュ ー ヨ ー ク
7/8 (月)	ナバレス第79代経済社会理事会議長、国連チリ政府常駐代表との面会 野田章子 国連事務次長補 兼 国連開発計画危機局長との面会 志野光子 特命全権大使・国連日本政府次席常駐代表との面会	
7/9 (火)	チャン大使（国連コスタリカ政府常駐代表）との面会 ウマロフ大使（国連カザフスタン政府常駐代表）との面会	
7/10 (水)	現地発（7/9深夜）	
7/11 (木)	日本着	

5 予算（単県）

5, 400千円（HOPe 負担金）

6 成果

〔国連ハイレベル政治フォーラムへの提案〕

ナバレス経済社会理事会議長をはじめ、会議関係者との面会を通じて、核兵器が持続可能な未来を阻害していることを訴え、持続可能性の観点から核兵器廃絶と核軍縮に取り組むことが、SDGsの推進にも資することを提案できた。

〔賛同者の拡大〕

持続可能性の観点から核兵器問題を提起する新しいアプローチについて、国連関係者等から賛同や助言を得ることができ、今後、次期国連開発目標に核兵器廃絶を位置づけていくための弾みとなった。